

令和4年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

研究プロジェクト名	「高校魅力化」のインパクトに関する研究		
研究代表者氏名	船越勝	所属部局名	教育学部
研究メンバー名	村田和子	所属部局名	紀伊半島価値共創基幹
	富田晃彦		教職大学院
当初計画に対する目標達成率	80%	研究プロジェクトの終了時期	令和5年3月
予算配分総額	500千円	経費使用総額	円(担当課で記入)

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

1. 和歌山県内全校を対象とした高校と地域の連携に関するアンケート調査の実施、分析、考察をもとにした今後の学校・地域連携のモデルの開発

和歌山県教育委員会の協力をいただき、県内高校を対象とした高校と地域の連携に関するアンケート調査を実施して、89%の回収率(45校中40校)を得ることができた。アンケート結果をもとに分析・考察を進め、県内高校の地域連携の実態や今後の課題を明らかにすることができた。(※結果については、別紙参照)

2. 県内高校調査

和歌山県立串本古座高校に「半島留学」している高校生及び担当教員を対象としたインタビュー調査の結果の分析

県内で先進的に高校魅力化に取り組んでいる和歌山県立串本古座高校を訪問し、県外から「半島留学」に来ている高校生及び魅力化に取り組んでいる担当の教員の聞き取り調査を行い、同校の取り組みの成果と今後の課題を明らかにすることができた。

3. 先進地調査

(1) 京都府与謝野町と京都府立宮津天橋高校加悦谷学舎

山口裕市氏(和歌山県教育委員会元教育長)と域学連携コーディネーターである増山雄大氏(食農総合研究教育センター)にも参加していただき、共同調査として、与謝野町教育委員会の井崎洋之氏、宮津天橋高校加悦谷学舎の学舎長の江上猛志氏、高校魅力化コーディネーターの長谷川夕起氏、(株)きしべ建設代表取締役の岸部敬氏、与謝野町商工振興課係長の井上公章氏、よさのうみ福祉会理事長の青木一博氏から現地にて聞き取り調査を行った。

調査日時:2022年11月24日(木)～11月25日(金)

視察・訪問先:与謝野町役場、リフレかやの里、京都府立宮津天橋高校加悦谷学舎

与謝野町の町づくりが主導した高校魅力化の連携の仕組みや、よさのうみ福祉会が行政から委託を受けて運営を担っている「リフレかやの里」に見られるような福祉のまちづくりの理念に基づく障害者雇用などの実態か

ら多くの知見を得ることができた。

(2) 島根県立津和野高校

船越が津和野町を訪問し、高校魅力化を支援している地域コーディネーターからなる一般財団法人「つわの学びみらい」の宮本善行代表理事、白石邦広コンソーシアムマネージャー、津和野町教育委員会次長補佐の楠寛氏、津和野高校主幹教諭（総合的な探究の時間担当）の村岡英子氏等から聞き取り調査を行い、20名からなる地域コーディネーターがリードする津和野高校の魅力化実践の特質を具体的に把握することができた。

(3) 広島県立大崎海星高校

船越が大崎上島町を訪問し、大崎海星高校の魅力化担当教員の兼田侑也氏、教頭の山内宗治氏、大崎上島町公営塾神峰学舎の魅力化スタッフの高橋貴一氏等から聞き取り調査を行い、地域の仕事の魅力の可視化とキャリア教育につながる、生徒参加の「仕事図鑑」づくりに代表される同校の魅力化の成果を生み出す10名の地域コーディネーターと高校との協働実践の実相を明らかにすることができた。

4. 公開フォーラム(ジョイントフォーラム)

2023年3月4日、県立粉河高校にて、先進地調査で訪問した与謝野町教育委員会の「高校魅力化ビジョン」策定のキーパーソンである同教育委員会社会教育係長の井崎洋之氏を講師に招き、与謝野町の成果を講演していただくとともに、それを受けたシンポジウムでは、先の先進地調査で明らかになった知見を語り合い、確かめ合って、研究成果を深化させ、参加者に還元するとともに、粉河高校並びに関係者の教育機会を創出した。

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

当初計画していた高校生を対象としたアンケート結果の分析や、私たちの研究グループが長年にわたって関わっている県立粉河高校のKOKO塾の取り組みとの比較研究を十分行うことができなかつたことがその理由である。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

本研究によって得られた成果と課題をもとに、一層の質的研究の深化をはかる。特に、学校と地域の連携による当該生徒に与える教育的価値は一定明らかにすることができたが、連携の地域社会へのインパクトについては研究方法も含めて引き続きの研究課題となる。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

今回のプロジェクトの研究成果をもとに、令和5年度科学研究費補助金に申請。結果は、不採択であったが、引き続き申請予定である。また、人文社会科学における他の公的資金・補助金についても適切なものがあれば申請する。

○ 学内外における成果の活用（予定も含む）

上記のジョイントフォーラムにおける先進地調査で訪問した与謝野町の井崎洋之氏の講演と、それを基にしたシンポジウムに村田がコーディネーター、船越がコメンテーターとして出演し、本プロジェクトで得た成果を参加者及び粉河高校などの地域社会に貴重な知見として提供することができた。さらに、高校関係者による月刊社会教育誌への投稿、第62回社会教育研究全国集会における「学校と地域」の分科会にて報告予定。

● 成果の地域社会への活用（予定も含む）。

和歌山県の公立高校を対象とした高校と地域の連携に関するアンケート調査を実施して、その結果と分析については、研究報告として論考化し、県内高校に届ける予定である。合わせて、公開学習会を継続し、高校と地域の連携におけるプラットフォームの構築やしくみの検討を地域とともに進める。

○ その他特筆すべき事項

【成果の外部公表の方法及び時期】

『Kii-Plus ジャーナル』第3号に、県内高校のアンケート調査と、与謝野町調査の結果については、それぞれ論文として投稿し、2本の研究論文として成果を公表する予定である。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経費等使用調査								
配分額	500,000 円		支出額	400,000 円		残額	100,000 円	
経費別内訳対比表								
区分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)
人件費					指導助言謝金	2	10,000	20,000
					資料整理等 1 月分（調査デ ータ入力）	1	7,200	7,200

					資料整理等 2 月分 (高校7ヶ -トデータ処理)	1	9,000	9,000
	計							36,200
備品費								
	計							
運営費					串本古座高校 (10/22 ~ 10/23)	1	25,160	25,160
					京都御池小学 校 (11/21 ~ 11/22)	1	14,890	14,890
					与謝野町役場 (11/24 ~ 11/25)	1	26,420	26,420
					与謝野町役場 (11/24 ~ 11/25)	1	28,440	28,440
					伊那小学校 (12/4 ~ 12/5)	1	38,120	38,120
					湯河原温泉伊 藤屋(12/27~ 12/28)	1	40,960	40,960
					津和野高校 (2/7~2/9)	1	42,926	42,926
					串本古座高校 (10/22 ~ 10/23)	1	17,140	17,140
					串本古座高校 (11/18 ~	1	17,790	17,790

				11/19)			
				与謝野町役場 他（11/24～ 11/25）	1	26,560	26,560
				まなぼーと大 原（3/17～ 3/19）	1	38,510	38,510
				切手	45	84	3,780
				後納郵便料 （10月分）	1	5,400	5,400
				書籍	1	31,080	31,080
				書籍	1	1,584	1,584
				書籍	1	1,683	1,683
				書籍	1	2,673	2,673
				書籍	1	684	684
				計			363,800
合 計							400,000